1999. 9. 8

The Japan Academy of Midwifery Newsletter NO. 29

# 日本助産学会ニュースレター

発行所　日本助産学会
〒102-0071
東京都千代田区富士見1-8-21
東京都助産婦会館内
電話 FAX 03-3221-0417
代表者　近藤潤子

## 第14回日本助産学会学術集会の準備にあたって

若松かをい
(鹿児島純心女子大学　看護学部)

21世紀を目前にして、20世紀にあなたの心に残る、日本の10大ニュースは、21世紀に子供たちに残したい歌はと、興味深い模索など、NHKから放映されております。

史実を重ねて思えば、今年は産婆業務が明示された医制（明治7年）から125年目、明治32年（1899）産婆規則制定から100年目に当り関連行事も計画中と聞いております。

この度、第14回日本助産学会学術集会を、2000年3月19（日）、20（月）の2日間、鹿児島市民文化ホールで開催させて頂くことになりました。九州では第7回の北九州市に次いで2回目となりますが、学会長を依頼のお話には感謝しながらも、まだ時期早尚、それに力量不足もと随分と戸惑い悩みました。しかし、九州の助産婦への貴重な贈り物と受け止めお引き受け致しました。

本学術集会の歩みをひもとくと、時代を見据え、時を得、人を得て、広く学際性、国際的視野も踏えて、助産学の本質、独自性、自律性、助産婦教育、助産学と研究、助産診断、技術面、実践面から、多くの課題への取り組みと提言が…利点は、継承、維持、発展へと行動化への努力がなされております。

第14回の学術集会では、今迄に構築された成果を踏えて、実際に何をすべきなのか、何が課題なのか、その方向性など、早急の検討が求められました。そこで、今世紀最後の節目の学会でもありますので、助産婦の専門性を再度考えてみるよい機会と位置づけ、メインテーマを「今、改めて助産婦の専門性を問い直す」と決めました。原点に立ち返って、助産学の追求ができたらと考えております。そして、また、関係職種との連携も視野に入れ、今後の方向性が…できる、できそうだ、到底できないなど…僅かでも見い出せたらと思っております。

学会準備は試行錯誤しながら、10年9月から現在まで11回の会合を重ね、まづ関係資料に基づき学習会から始め、企画委員相互の共通理解と連携、和のもとに進行しております。本学会の理事、評議員の先生には、学術関連調査も含めご指導を頂いております。また必要上確認したことを述べますと、本学会は助産婦の研究推進と助産学の発展をめざして、全国助産婦教育協議会・教務主任部会と日本助産婦会の協力の下、助産婦の学術学会設立の念願が叶って、1987年3月15日（大阪）、盛大な設立総会と第1回学術集会から現在へ、会員は約1300名（登録は1800台）、病・産院、助産所、保健所、行政関係、看護教育機関（大学、短大、保助看養成所）、その他に所属し、手続き（研究業績等の資格審査）が必要です。助産学会員は小人数ながら、先達のご努力で早い時期の1993年に日本学術会議に登録し、学術研究団体として承認され、1997年には、第7部、泌尿・生殖医学会と地域医学会の研究連絡委員会に所属して、日本助産学会誌を発行し学会としての高い質が保持されています。学術集会への発展論文や、学術誌に掲載時には水準の維持のため、論文の信頼性、妥当性の面から、委員の査読の経由が必要となります。

現在、日本母性衛生学会他、関連学術集会

の増加と多様化傾向の中、選択肢も多く会員増難も考えられますが、本学会は日本学術会議に登録の学術研究団体であることや、査読にも耐え質の高い論文作成への自負や満足感などを、各自が再度見直し、これらの利点を生かしたＰＲ活動など…会員増へ結びつけられたらと…また、学会誌を通して、臨床現場の助産婦から、母性看護学担当領域からの発表論文の増加なども期待したいと思っております（母性看護担当者の育成や、教材研究などは、本学会の10年間の達成課題です)。教育現場からの助産学構築への熱い想いの下に誕生した理念を忘れずに更なる発展のために微力ながら、九州の助産婦の皆様や企画委員一同残された月日を大切に努力したいと思っております。

多くの皆様のご参加を鹿児島の地で心よりお待ちしております。

## 国際助産婦連盟　国際評議会出席報告

理事　竹内　美恵子

会　　場　　マニラ　フィリピン国際会議場3階1号室
議事日程　　1999年5月16～19日　8時30分から17時
代表者名　　日本助産学会理事長　近藤　潤子（天使女子短期大学)、同理事　竹内美恵子（徳島大学医療技術短期大学部)

国際助産婦連盟評議会は、3年毎に開催される国際助産婦連盟の学術集会に先立って開催されている。第25回国際助産婦連盟は、理事会や会員協会から提出されたさまざまな議題を討議し、連盟の活動方針や運営について新たな事項を採択し、併せて、理事長等の役員や地域代表を選出した。また、本部はオランダのハーグへ移転することを決議し、21世紀に向けた新たな活動方針について協議を行った。

なお、地域代表の選出は、アフリカ、北米、ヨーロッパ、アジア太平洋の四地域別に選出されたが、アジア太平洋地域代表として6年間その任に当たられた前副理事長松本八重子先生（日本看護協会助産婦職能委員長）が退任し、新たに、本会の近藤潤子理事長が日本助産婦会を代表して選出された。

協議は、68か国の78の加盟団体の代表者各2名と、連盟を運営する理事会役員（ＩＣＭ理事長、副理事長、会計担当理事、会長)、副会長、前会長、地域代表、本部事務局長の構成メンバーにより、事業計画や予算案などについて行われた。これらの議題は、提案主旨（議題を提案する根拠や信念）を詳細に解説した書面が、事前に各代表者に配布され、討議から決議、あるいは承認へと効率的に導かれる準備がされていた。しかし、文化的な背景や使用言語の相違から、会議の進行に遅れが生じ、いくつかの議題は、後日書面にて執行部との意見交換を進めることとなった。主な議題と内容を以下に報告する。

### 第1日目

先ず、会議の進行を効率的にすすめるために、会議前に各代表にハンドブック配布されていた。会議はハンドブックを基に、(1) 討議の証人として立会人、(2) 投票計算係、(2) 議事運営規則および会議時間 (3) オブザーバーを承認し、続いて、ジンバブェ助産グループのジンバブェ助産婦連盟への名称変更を承認した。また、1996年5月の評議会以降、連盟に加盟した会員の承認として、10カ国12団体が承認された。

1.　名称変更のあった会員協会の通知
　　ジンバブェ助産グループはジンバブェ助産婦連盟に変更

2. 1996年5月の評議会以降、連盟に加盟した会員の承認
　10カ国、12団体を承認
　マラウイ、ジンバブエ、アルゼンチン、エクアドル、ベルギー（フィレミッシュ助産婦会)、エストニア、ラトビア、ポーランド、ロシア、スロベニア，フィリッピン、ベトナム

3. 連盟の会員資格の決議（定款8条、細則7）
会費をおさめることが困難である国では、会費の支払いが長期にわたり滞っている。これらの国は、会員としての権利がはく奪されるが、これらの貧窮国のために、年会費のカテゴリーを新たに追加、変更し、資格の維持を図ることが決議された。

4. 地域代表により明らかにされた1999～2002年間の3つの優先課題と行動計画、達成すべき3つの課題
アフリカ、北米、ヨーロッパ、アジア太平洋の各地域から上記課題が発表された。
しかし、時間的に十分な討議が実施できなかったために、後日上記課題が執行部により整理され発送されることになった。本学会は、(1) 日本の助産婦がもつべき実践能力と責任範囲の明確化、(2) 助産婦教育の実践能力を達成するための分娩介助経験数の充実、(3) 基礎看護学教育と特殊専門領域としての助産学教育の領域の明確化を提示した。アジア太平洋地域の課題は、助産婦の役割の明確化、助産婦教育の充実を図ること、助産婦の法規の整備を提案した。

5. マリー・ゴブラン賞
　1999年の受賞者：Ms L. Kamwendo－マラウィ
　　Ms N. T. Moyo－ジンバブェ

## 第2日目以降

第一日目の議題とともに、(1) 定款細則の修正案　(2) 運営と財務　(3) 専門職の発展と専門職の発展のための諸会議 (4) 国際助産婦連盟の組織、機構について討議した。

1. 定款、細則の修正案
定款細則の修正は、ＩＣＭの目標と活動の一部修正や、理事会での投票権を会長（大会）に認めること、開発途上国が多く会員になれるように、会費の人割の他に、貧窮により連盟会費を支払えない国を新たなカテゴリーとする理事会提案等が採択された。
また、「セーフ・マザーフット・ファンド（母性の安全基金)」の基金は、従来のセーフマザーフッド基金」と「スポンサー・ア・ミドワイフ基金」を一つにまとめるとの合意で規定された。

2. 専門職の発展と諸会議について
(1) 第26回 ＩＣＭ大会
　開催場所：2002年4月14日から19日
　開催場所：オーストリア　ビエナ
　大会テーマ「家族のために女性とともにある助産婦」を採択
　中間期の評議会は、ジンバブエでワークショップとともに開催予定
(2) 第27回 ＩＣＭ大会　　2005年　会期は未定
　開催場所：オーストラリア　ブリスベーン
(3) 国際助産婦の日
　(1) 国際助産婦の日は国連での承認が得られるように活動を推進している。
　(2) 今後の活動の方向性とテーマを決定
　　3年間の全体テーマは「すべての女性に平等な助産ケアへのアクセスを提供する」と決定、3年間の年度別のテーマが採択された。

3. 助産婦に必須の基本的能力：理事会勧告の決議
1996年以来、理事会、執行委員会は、基本的能力を6つの目標別に、知識と技術で分類し、加盟団体との間で継続的に検討してきた。その結果について、意見交換を行ったが、さらに本年度

は、これらをフイルドで検証することとなった。

また、この「助産婦に必須の基本的能力」は、ＩＣＭとＷＨＯで合同で検討をすすめてきた「世界的助産業務の基準設定」とともに公表することを決定

**4.　組織、機構**

(1)　本部の場所

候補地であるロンドン、ジュネーブ、オランダは、経済的面から経費節減ができるとの判断から、オランダ、ハーグに移転を決定

(2)　1999～2002年間の連盟役員の指名と選挙結果

(1)　会長　M．スペルンバウア（オーストリア）

(2)　副会長　C．ウィーバー（オーストラリア）

(3)　理事会選挙

1．理事長

ジョイス、トンプソン（アメリカ）

2．副理事長

ジュディ、プラウン（オーストラリア）

3．会計

R．アシュトン（英国）

(4)　地域代表選挙結果

① アフリカ2名：K．P．P．アバーピオ（ガーナー）．J．セーフ（タンザニア）

② アメリカ2名：D．ホルツア（北米）．A．B．チロ（アルゼンチン）

③ アジア／太平洋－2名：近藤　潤子（日本）
キャーレン　ギリーランド（ニュージランド）

④ ヨーロッパ－5名：K．デービス（英国）、R．ドレーヤー（オランダ）
E．セリン（デンマーク）、M．アスンタ（イタリア）
R．ブラウン（スイス）

なお、今後は本部より報告される「助産実践の基準」に関する解説や「助産婦に必須の基本的能力」については、ニュースレター並びに日本助産学会誌のＩＣＭの記事を参照にして頂きたい。

## 学術集会集録原稿執筆要項一部変更のお知らせ

第13回総会（札幌）において会員より、学術集会集録原稿はもう少し少ない字数での募集を希望する主旨の発言がありました。今理事会で検討の結果、第14回学術集会より従来の見開き2枚相当から1枚相当にすることが変更になりました。詳しい執筆要項は第14回学術集会事務局より演題申込者に送付されます。

# 13回日本助産学会総会報告

日　時　１９９９年５月　４日（火）　１２：３０～１３：２０
会　場　札幌市教育文化会館　１階 大ホール
出　席　学会員　97名
開　会　近藤理事長のあいさつにより開会した。
（第9回の日本学術会議推薦人会議について、第7部への会員候補は最初一人であったのが、会員数が1,000人を超えたことから二人出すことができた。
泌尿生殖医学会員候補宮里和子・推薦人近藤潤子、地域医学会員候補堀内成子・推薦人平澤美恵子である。今後も二人出すことができれば対処したい。

議　事　丸山第13回学術集会会長の議長により、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに従って進行した。
＜報告事項＞
１．理事会および評議員会並びに新任理事会・新任評議員会報告　（近藤理事長）
1）　理事会は６回開催、主な討議事項は次のとおりである。
ＩＣＭ関係では、ＩＣＭから提案された諸問題、ﾏﾆﾗ大会における国際評議会に学会から派遣する代表について、次期のｱｼﾞｱ太平洋地域代表推薦について。
第14回学術集会会長を選出し、書面により評議員の承認を得た。
第13回学術集会の運営 学会事業の推進等の審議、入会申込者の審査を行った。
第５期評議員、理事・監事の選出について報告を受けた。
2）　評議員会は、5月3日（月）11:10～12:40 出席24名、欠席13名（委任状13通）にて開催した。
審議した総会提案事項についてはすべて承認され、第15回学術集会会長に坂井明美 金沢大学医学部保健学科教授を選出をした。
3）　新任理事会は、5月3日（月）9:10～9:40 出席12名、欠席　2名（委任状2通）にて開催した。
あらためて就任を委嘱、各理事・監事の自己紹介の後、理事の互選により理事長に近藤潤子氏、副理事長に堀内成子氏を選出した。
引き続いて、近藤理事長より日本助産学会の活動の現状および会則に拠り理事・監事の任務について説明した。
新任評議員会は、5月4日（火）11:30～12:20 出席25名、欠席12名（委任状11通）にて開催した。
あらためて就任を委嘱、各評議員の自己紹介の後、近藤理事長より日本助産学会の活動の現状および会則に拠り評議員の任務について説明した。
２．庶務報告　（小木曽理事）
1）　会員数１月末日現在、普通会員 1,017名、特別会員15名、（学会誌継続購読）30機関で、そのうち普通会員の新入会72名、退会数68名である。
2）　ＩＣＭｾｰﾌﾏｻﾞｰﾌｯﾄﾞ（母性保護基金）募金について
３．収支決算報告　（藤田理事）
一般会計：収入合計 12,350,697円　次年度繰越金 2,904,390円
特別会計 現在高：学術集会基金　2,484,513円　学術基金　2,820,000円
ＩＣＭ評議会出席費用積立金　750,000円
４．委員会報告　（松本副理事長）
1）　会則担当
「委託研究助成内規」「学会として弔慰を表す場合」について検討した。
2）　広報委員会
国際助産婦の日のﾎﾟｽﾀｰを助産婦の3団体で企画し、学会としては500枚作成、ﾘｰﾌﾚｯﾄは当学会でオリジナルに5,000枚と追加3,000枚を作成した。
ﾎﾟｽﾀｰ・ﾘｰﾌﾚｯﾄは、関連機関および国際助産婦の日の行事開催団体へ開催支援とし

て、必要枚数送付した。
ﾆｭｰｽﾚﾀｰ第26号、第27号、第28号を各1,100部発行した。

3) 編集委員会
学会誌第12巻第1号および2号を発行した。

4) 国際委員会
ＩＣＭからの情報の提供。ＩＣＭ関連事項の処理（ｱﾝｹｰﾄの回答、連絡）を行った。
定款改正・細則の見直し本学会理事会の意見の集約、ＩＣＭへの送付
第25回ＩＣＭ大会へ学会代表として、近藤理事長と竹内理事を決定した。

5) 学術会議委員会
第4回学術講演会　7月11日（土）を実施
平成11年度科学研究費助成金「研究成果公開促進費」Ｂの申請をした。
学術会議対策 本年は第18期日本学術会議への団体登録年である。

6) 学術振興委員会
第11回ワークショップ開催　参加者　基調講演　36名　ワークショップ　２６名

7) 将来の助産婦のあり方検討委員会
平成９年より検討した「日本の助産婦が持つべき実践能力と責任範囲」を、中間報告を経て、平成10年12月18日理事会に答申した。検討内容は第12巻第2号に掲載。

5．　第13回学術集会準備（丸山学術集会会長）
企画委員会6回開催
発表演題：一般口演34題 ポスターセッション6題 ビデオセッション1題 計41題
参加申込状況　学術集会（前納）249名　　懇親会　57名
以上報告事項は報告通り承認された。

＜審議事項＞

1．　平成１１年度事業計画案　（近藤理事長）
1)第14回学術集会開催
2)学会誌・ﾆｭｰｽﾚﾀｰの発行
3)助産学に関する研究の振興
4)助産学に関する研究委託
5)国際助産婦の日に関する事業の実施
6)国際助産婦連盟および関連団体との交流
7)日本学術会議関係活動
8)組織強化
9)運営および事業に関する会議開催
総会1回、評議員会1回、理事会5回、その他委員会

2．　平成１１年度収支予算案（藤田理事）
収　入　13,084,390円（会費、繰越金ほか）
支　出　10,530,271円（会議費、事業費、事務費、予備費ほか）
繰越金　2,554,119円
事業計画案および収支予算案は提案通り承認された。

3．　新理事長・副理事長承認
理事長 近藤潤子氏、副理事長 堀内成子氏を選出したことを報告し、承認された。

4．　次々期学術集会会長承認
坂井明美 金沢大学医学部保健学科教授を選出したことを報告し、承認された。

＜次期学術集会会長あいさつ＞
若松第１４回学術集会会長あいさつ
平成１２年３月１９日・２０日 、鹿児島市の市民文化ホールで開催する。

閉会　松本副理事長のあいさつにより閉会した。

Japan Academy of Midwifery

第14回日本助産学会学術集会

# 第14回日本助産学会学術集会ご案内・演題募集案内（第1報）

少子・高齢化が進む中で、助産婦が時代のニーズに対応した実践ができるよう、助産婦活動の内容、質、場の変革が求められています。そのためには、21世紀に向けて発想の転換をはかり，その専門性を見直す必要があるのではと思います。

そこで、今回、メインテーマを「今改めて助産婦の専門性を問い直す」（仮題）とし、原点に立ち返って皆様と共に助産学を追求していきたいと考えております。

今世紀最後の節目の学会でもありますので、是非、お手元のご研鑽の成果をまとめて、鹿児島の地へご参集くださるようお待ちしております。

学術集会会長　若松　かをい

1．期　　日　2000年3月19日（日）～20日（月・祝日）

2．会　　場　鹿児島市民文化ホール
（鹿児島市与次郎二丁目3－1　☎099－257－8111）

3．プログラム　★特　別　講　演：世界の助産の動向（仮題）
ジュディス・P・ルークス氏　アメリカ助産学会名誉会員
マタニティセンター　アソシエーション顧問

★会　長　講　演

★教　育　講　演

★シンポジウム

★ワークショップ・助産婦の技と伝承
（検討中）　・生殖医療と助産婦の役割
・助産婦教育への提言
――助産学，看護教育・看護実践領域から――

★一　般　演　題：口演、示説（ポスター・ビデオセッション）

4．演題募集要項

1）申し込み資格：共同研究者を含めすべて日本助産学会会員（普通会員・特別会員）であること。

2）発 表 形 式：口　演；発表時間15分（質疑応答含み）スライド使用可能。
示　説；ポスターセッション、ビデオセッション。

3）申し込み方法：下記の事項を官製ハガキに記入し、
1999年9月1日（水）〈当日消印有効〉までに送付してください。

| |
|---|
| 演題名、研究者名、希望発表形式、日本助産学会会員番号（共同研究者も含む）<br>連絡先（郵便番号、住所、氏名、電話番号） |

4）原稿の提出：演題申し込みをされた方には、改めて執筆要項をお送りします。
※原稿締めきりは　1999年10月25日（月）〈当日消印有効〉。

5）申し込み先：〒895-0011　鹿児島県川内市天辰町2365番地
鹿児島純心女子大学　看護学部　　若松研究室内
第14回日本助産学会学術集会　事務局
Tel/Fax 0996－23－5441（学術集会専用）

# 日本助産学会理事・監事名簿

1999.4～2002.3

| | | |
|---|---|---|
| 理事長 | 近藤潤子 | 天使女子短期大学 |
| 副理事長 | 堀内成子 | 聖路加看護大学 |
| 理事 | 小木曽みよ子 | 小木曽助産学研究所 |
| 理事 | 小田切房子 | 埼玉県立大学短期大学部 |
| 理事 | 加藤尚美 | 沖縄県立医療大学 |
| 理事 | 加納尚美 | 茨城県立医療大学 |
| 理事 | 佐々木和子 | 国立仙台病院 |
| 理事 | 菅沼ひろ子 | 宮崎県立看護大学 |
| 理事 | 竹内美恵子 | 徳島大学医療技術短期大学部 |
| 理事 | 平澤美恵子 | 日本赤十字看護大学 |
| 理事 | 宮里和子 | 北里大学看護学部 |
| 理事 | 丸山知子 | 札幌医科大学保健医療学部 |
| 監事 | 岡本喜代子 | 社団法人日本助産婦会 |
| 監事 | 坂井明美 | 金沢大学医学部保健学科 |

1999.5 役職別 50 音順

# 日本助産学会運営および事業推進表

1999年8月

| 委員会名 | 事業・業務内容 | ◎理事・監事<br>◇幹事 ○委員長<br>▽委員 | 所属名称 |
|---|---|---|---|
| 総括 | | ◎近藤 潤子 | 天使女子短期大学 |
| 庶務 | 事務所業務管理<br>受理文書管理 会議の準備 | ◎小田切房子<br>◇山本 智美 | 埼玉県立大学 短期大学部 |
| 会計 | 収支・資産管理<br>会計執行 予算案立案 | ◎菅沼ひろ子<br>◇長鶴美佐子 | 宮崎県立看護大学<br>北里大学大学院 |
| 会則 | 会則・細則・内規等の整備<br>改正案作成 | ◎宮里 和子<br>◇黒田 緑 | 北里大学看護学部<br>北里大学看護学部 |
| 渉外 | 外部との連絡交渉<br>組織強化 | ◎小木曽みよ子 | 小木曽助産学研究所 |
| 広報委員会 | ニュースレター発行<br>国際助産婦の日の<br>ポスター・リーフレット作成 | ◎佐々木和子<br>▽佐藤喜根子 | 国立仙台病院<br>東北大学医療技術短期大学 |
| 編集委員会 | 学会誌発行 | ◎堀内 成子<br>▽三橋 恭子<br>▽野口 真弓<br>▽多賀 佳子 | 聖路加看護大学<br>聖路加看護大学<br>長野県看護大学<br>聖母女子短期大学 |
| 国際委員会 | ICMと連携<br>学会誌・ニュースレターを通じ<br>国際情報の提供<br>その他国際関連事項 | ◎加納 尚美<br>▽李 節子<br>▽小野 紀子<br>▽<br>▽ } 交渉中 | 茨城県立医療大学保健医療学部<br>東京女子医科大学 看護学部<br>愛育病院 |
| 学術会議委員会 | 日本学術会議関連事項<br>学術講演会開催 | ◎丸山 知子<br>▽須藤 桃代 | 札幌医科大学保健医療学部<br>北海道立衛生学院 |
| 学術振興委員会 | ワークショップの開催<br>文献検索サービス<br>研究の委託 | ◎加藤 尚美<br>◎竹内美恵子 | 沖縄県立医療大学<br>徳島大学医療技術短期大学 |
| 業務・教育検討委員会 | 時代に即した助産婦の機能・<br>業務の質・水準の検討<br>業務の質に即した卒後教育の<br>検討<br>顧客サービス | ◎平澤美恵子<br>◎堀内 成子<br>▽松岡 恵<br>▽村上 睦子<br>▽園生 陽子<br>▽江角二三子 | 日本赤十字看護大学<br>聖路加看護大学<br>東京医科歯科大学医学部<br>日本赤十字社医療センター<br>聖母女子短期大学<br>深谷赤十字病院 |
| 監事 | 会計・資産管理 | ◎岡本喜代子<br>◎坂井 明美 | (社)日本助産婦会事務局<br>金沢大学医学部保健学科 |
| 学術集会 | 第14回学術集会会長<br>2000.3.19～20開催<br>第15回学術集会会長 | 若松かをい<br><br>坂井 明美 | 鹿児島純心女子大学看護学部<br><br>金沢大学医学部保健学科 |

# 日本助産学会評議員名簿

1999.4～2002.3

| | |
|---|---|
| 近藤　潤子 | 天使女子短期大学　011-741-1051<br>札幌市東区北十三条東3丁目　〒065-0013 |
| 須藤　桃代 | 北海道立衛生学院　011-611-0291（2601）<br>札幌市中央区南二条西15丁目　〒060-0062 |
| 丸山　知子 | 札幌医科大学保健医療学部　011-611-2111（2856）<br>札幌市中央区南一条西11丁目　〒060-8556 |
| 新道　幸恵 | 青森県立保健大学　0177-65-2100<br>青森市大字浜館字間瀬58-1　〒030-8505 |
| 佐々木和子 | 国立仙台病院　022-293-1315<br>仙台市宮城野区宮城野2-8-8　〒983-0045 |
| 佐藤喜根子 | 東北大学医療技術短期大学部　022-717-7956<br>仙台市青葉区星陵町2-1　〒980-8575 |
| 内藤　和子 | 福島県立医科大学　024-547-2380<br>福島市光が丘1　〒060-0062 |
| 加納　尚美 | 茨城県立医療大学　0298-40-2181<br>茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2　〒300-0331 |
| 青木　康子 | 桐生短期大学　0277-76-2400<br>群馬県新田郡笠懸町阿左美606-7　〒379-2392 |
| 江角二三子 | 深谷赤十字病院　0485-71-1511<br>埼玉県深谷市上柴町5-8-1　〒366-0052 |
| 小田切房子 | 埼玉県立大学短期大学部　0489-73-4779<br>埼玉県越谷市三野宮820　〒343-8504 |
| 藤田八千代 | 昭和大学医療短期大学　045-985-6517<br>横浜市緑区十日市場町1865　〒226-8555 |
| 宮里　和子 | 北里大学看護学部　0427-78-9383<br>相模原市北里2-1-1　〒228-0829 |
| 岡本喜代子 | （社）日本助産婦会　03-3262-9910<br>東京都千代田区富士見1-8-21　〒102-0071 |
| 恵美須文恵 | 東京都立保健科学大学　03-3819-7403<br>東京都荒川区東尾久7-2-10　〒116-0012 |
| 平澤美恵子 | 日本赤十字看護大学　03-3409-0892<br>東京都渋谷区広尾4-1-3　〒150-0012 |
| 堀内　成子 | 聖路加看護大学　03-5550-2264<br>東京都中央区明石町10-1　〒104-0044 |
| 松岡　恵 | 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科　03-5803-5346<br>東京都文京区湯島　1-5-45　〒113-0034 |

| | |
|---|---|
| 村上　睦子 | 日本赤十字社医療センター　03-3400-1311（2226～2264）<br>東京都渋谷区広尾 4-1-22　〒150-0012 |
| 坂井　明美 | 金沢大学医学部保健学科　076-265-2547<br>金沢市小立野　5-11-80　〒920-0942 |
| 島田　啓子 | 金沢大学医学部保健学科　076-265-2547<br>金沢市小立野　5-11-80　〒920-0942 |
| 小木曽みよ子 | 小木曽助産学研究所　0568-32-3095<br>春日井市妙慶町 2-20　〒486-0928 |
| 三井　政子 | 岐阜医療技術短期大学　052-853-8067<br>関市市平賀字長峰 95-1　〒501-3892 |
| 我部山キヨ子 | 三重大学医学部看護学科　059-231-5256<br>三重県津市江戸橋 2-80　〒514-8507 |
| 宮中　文子 | 京都府立医科大学医療技術短期大学部　075-212-5440<br>京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町 410　〒602-0859 |
| 河相　佳子 | 大阪赤十字助産婦学校　06-6771-5131（235）<br>大阪市天王寺区筆ヶ崎町 5-53　〒543-8565 |
| 未原紀美代 | 大阪府立看護大学　0729-50-2111<br>羽曳野市はびきの 3-7-30　〒583-8555 |
| 多賀　琳子 | 多賀助産院　06-6461-1213<br>大阪市福島区野田 3-13-40　〒553-0005 |
| 髙田　昌代 | 神戸大学医学部保健学科　078-796-4526<br>神戸市須磨区友が丘 7-10-2　〒654-0142 |
| 吐山ムツコ | 吉備国際大学保健科学部　0866-22-9454<br>岡山県高梁市伊賀町 8　〒716-0018 |
| 横尾　京子 | 広島大学医学部保健学科　082-257-5360<br>広島市南区霞 1-2-3　〒734-0037 |
| 竹内美恵子 | 徳島大学医療技術短期大学部　0886-33-7405<br>徳島市蔵本町 3-18-15　〒770-0042 |
| 浅生　慶子 | 西南女学院大学保健福祉学部看護学科　093-583-5025<br>北九州市小倉北区井堀 1-3-5　〒803-0835 |
| 賀久　はつ | むなかた助産院　0940-36-1131<br>福岡県宗像市日の里 1-1-12　〒811-3425 |
| 岸　英子 | 長崎大学医療技術短期大学部　095-849-7948<br>長崎市坂本 1-7-1　〒852-8520 |
| 菅沼ひろ子 | 宮崎県立看護大学　0985-59-7745<br>宮崎市大字郡司分字鷹ヶ迫乙 2203　〒880-0924 |
| 加藤　尚美 | 沖縄県立医療大学　098-833-8804<br>那覇市与儀 1-24-1　〒902-0076 |

都道府県 No. 順（同地区 50 音順）（1999. 6）

## ICMセーフマザーフッド（母性保健）募金の御礼

会員の皆様に標記の基金の第2次のお願いをさせて戴きました。
募金は77名、2団体の方々から473,000円戴きました。お送り下さいました会員の皆様のご好意を心から厚く御礼申し上げます。

募金下さいました方々の団体名と氏名を掲示致します（順不同）

聖バルナバ病院
静岡県立厚生保育専門学校助産学科
阿部　時子
笹崎　フミ子
増永　美智子
坂本　節子
山口　正子
久川　洋子
中村　マサ子
熊谷　恭子
島田　啓子
高橋　弘子
佐古　かず子
山本　令子
小牧　敏子
加藤　波子
喜佐上　鶴子
大平　純子
嶋田　紀膺子
山口　祐子
松岡　知子
川中　洋子
長鶴　美佐子
川原　淳子
宮里　邦子
斎藤　育子
黒木　美那子
湯本　敦子
小早川和子
森　明子
正木　嘉代子
森　洋子
森川　久美子
松本　清一
布原　佳奈
槙下　いく子
佐々木　雅子
瀧田　淳子
高橋　つや子
鈴木　和代
高橋　里美
奥主　房子
川田　千恵美
中村　セツ子
近藤　好枝
森川　勝絵
荒木　奈緒
多賀　琳子
宇部　康子
村上　睦子
郷祖　京子
高島　葉子
工藤　ハツ子
小林　益江
小木曽みよ子
藤島　輝子
平田　正子
瀬井　房子
渡辺　恵美子
波津　みよ子
清水　幸子
密浦　由賀里
岡山　久代
谷口　通英
藤本　英子
田島　恵子
藤林　国恵
吉永　靖子
中谷　三佳
江幡　芳枝
小林　恵美子
岩本　美佐子
緒方　妙子
住田　亮子
三田村　七福子
貞弘　典子
福本　弘子
前野　寿子
大村　いずみ

## 事務局だより

平成11年度第2回理事会が8月27日に聖路加看護大学において開催され本年度事業の推進について報告・審議がなされました。本年は総会開催時期の関係で例年より少し遅くなっておりますが、今年度活動が開始されております。